▲小さい穴、細長い溝、まるい溝。土地に刻まれた歴史が、今よみがえる。

■発　行：〒980-91 仙台市青葉区国分町三丁目７－１ ☎261-1111
仙台市教育委員会文化財課
■発行日：平成５年３月
■印　刷：針生印刷株式会社

仙台市文化財パンフレット第32集

禁帯出

謎の地下博物館

王ノ壇遺跡（おうのだんいせき）

―― 遺跡の町　大野田4,500年 ――

▲王ノ壇古墳と幻の「王ノ壇」？

仙台市教育委員会

大野田を空から見ると

○は古墳　　▲袋の中に遺跡がいっぱい

王ノ壇遺跡は太白区大野田字王ノ檀にあります。この地には、「昔、東平王という人が、ここで亡くなったので、この方をまつる場所をつくり、これを王ノ壇と呼んだ。」という伝説があります。この王ノ壇（おうのだん）が大野田（おおのだ）の地名のおこりと言われています。

大野田は南の名取川と北の旧笊川にはさまれた地域です。このため、たび重なる洪水で運ばれた土砂が厚く堆積し、まわりより小高い土地になっています。旧笊川の北の富沢は、じめじめした低い土地であり、旧笊川をはさんで対照的です。

大野田には、10ケ所の遺跡と5ケ所の古碑群があります。これまでの調査で、この地には約4,500年以上前から人々が住みはじめ、以後ずっと、生活の場とされてきたことがわかっています。旧笊川に袋のような形で囲まれた大野田は、長い間の人々の生活のようすや土地の利用のうつりかわりを知ることのできるたいへん貴重な地域です。

大野田は仙台の長い歴史がぎっしりとつまった遺跡の町なのです。

大野田 遺跡マップ

1,500年前の水田

（富沢遺跡）

1,800年前の石庖丁と石斧

（下ノ内浦遺跡）

1,100年前の住居

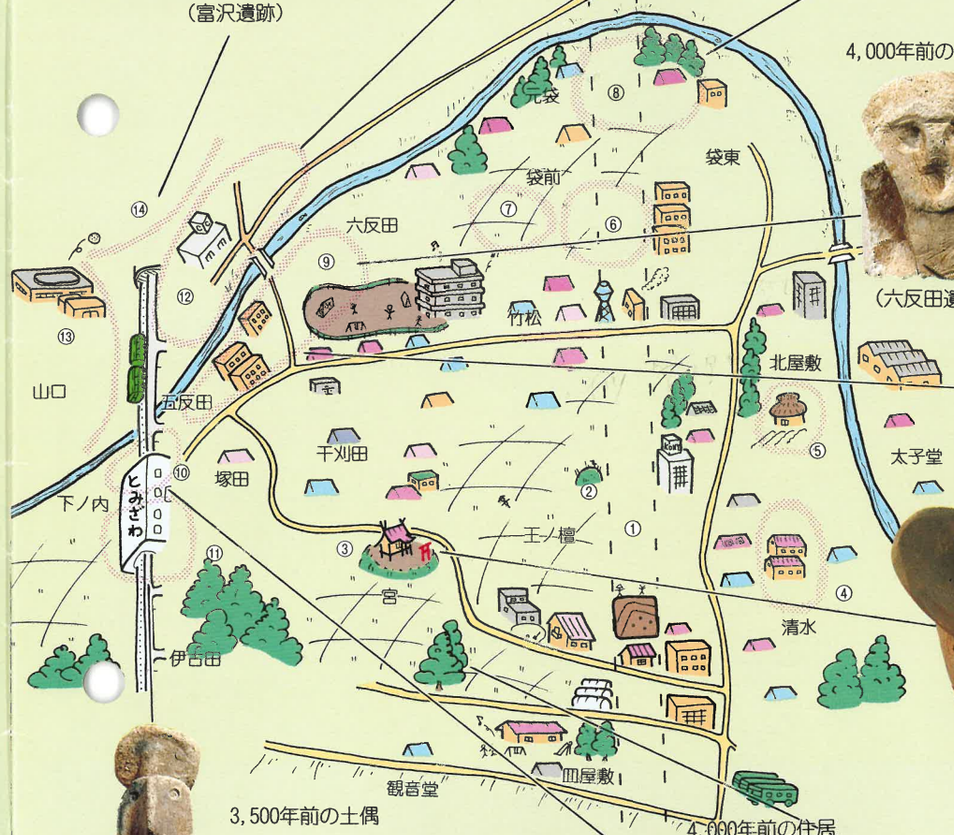
（元袋遺跡）

1,500年前のお墓

（六反田遺跡）

4,000年前の岩偶

（六反田遺跡）



1,500年前の馬の埴輪

（春日社古墳）

3,500年前の土偶

（伊古田遺跡）

4,000年前の住居

（下ノ内遺跡）

700年前の板碑

（王ノ壇の用水路）

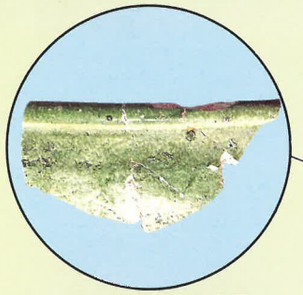
王ノ壇遺跡のあらまし

◀平成３年・夏・８月　鳥の目が見た王ノ壇

王ノ壇遺跡の発掘調査は都市計画道路をつくるために行われました。昭和63年７月から平成４年12月までの４年半で、幅30ｍ×長さ500ｍの面積を調査しました。

この遺跡には昔の人々の生活していた地面が７面あります。最も古い地面は約3,500年前の縄文時代、最も新しい地面は約700年前の鎌倉時代頃のものです。一番古い地面は、現在の地面の約２ｍ下にあります。

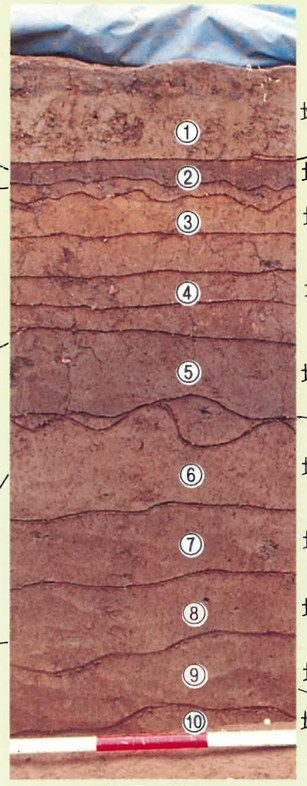
王ノ壇遺跡は、１つの遺跡でほとんど全ての時代のことがわかるめらしい遺跡です。まるで、地下の歴史博物館です。



▲鎌倉時代の輸入陶器

▲飛鳥時代の土器

▲弥生時代の土器



▲地層の断面

▲鎌倉時代の陶器

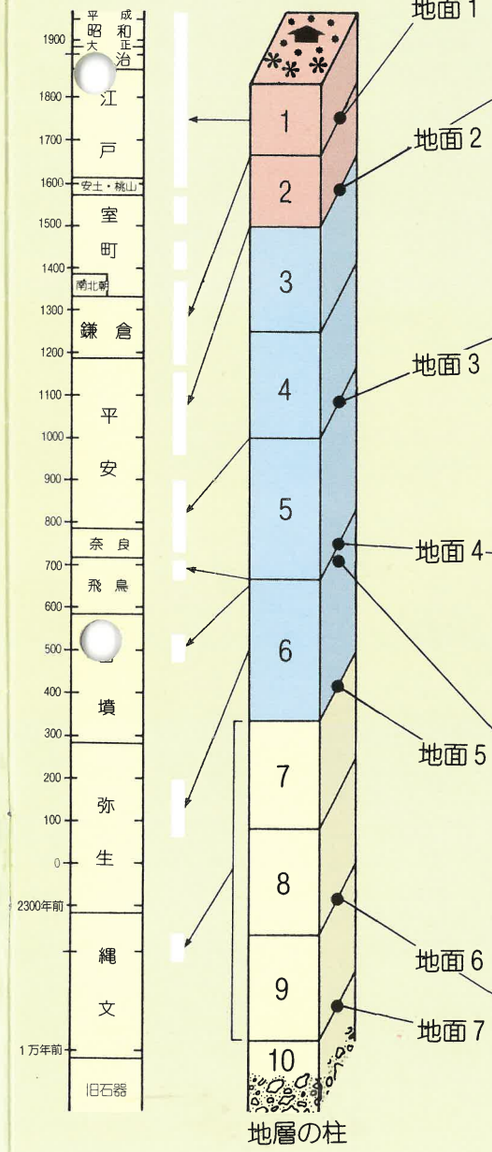
▲古墳時代の埴輪

▲縄文時代の土器

土利利用のうつりかわり

今から約3,500年前、この地に人々が住みはじめてから、それぞれの時代で異なった土地の使い方をしています。

そのため、遺跡をくわしく調べると、当時の人々の生活の仕方や土地を切り開く技術、世の中のようすなどを知ることができます。



武者の世に

地面1

鎌倉時代頃
今から約800〜600年前

◀鎌倉時代頃の王ノ壇
大きな溝で囲まれた土地の中に、さらに溝で囲まれた武士の屋敷などがある

源頼朝が鎌倉に幕府を開き武士による政治が行われた時代。みちのくの中心は多賀城から岩切にかけてのあたりでした。この近くでは、名取熊野三社が信仰の地として栄えていました。この頃、王ノ壇には南北400mにも及ぶ土地を、大きな溝で囲んだ区域があり、その中には武士の屋敷もありました。屋敷の周辺には、庶民の家やお墓、当時の信仰を物語る板碑などもあり、当時、王ノ壇が大野田周辺の中心的場所だったようです。地元には、近くの名取川に渡しがあり、古い街道がこの辺りを通っていたという言い伝えが残っています。

類例のない石敷きの竪穴

王ノ壇遺跡

中世の武家屋敷跡
南側に職人の作業場も

仙台市太白区大野田の中世遺跡・王ノ壇遺跡の発掘調査を進めていた仙台市教育委員会は二十三日までに、仙台市内では初の鎌倉時代（十三世紀前半から十四世紀前半）の武士の屋敷跡を確認した。鎌倉時代の武士の屋敷内では多賀城市・新田遺跡に次いで二例目となる。同市教委では「現在の名取市と仙台市南部に当たる名取郡を領地としていた鎌倉幕府の有力御家人、三浦氏などの代官屋敷跡だった可能性もある」として注目している。

今年四月から発掘調査を実施した結果、東西が推定七十メートル、南北五十五メートル（幅三メートル、深さ一・六メートル）なども囲まれた屋敷跡が確認された。

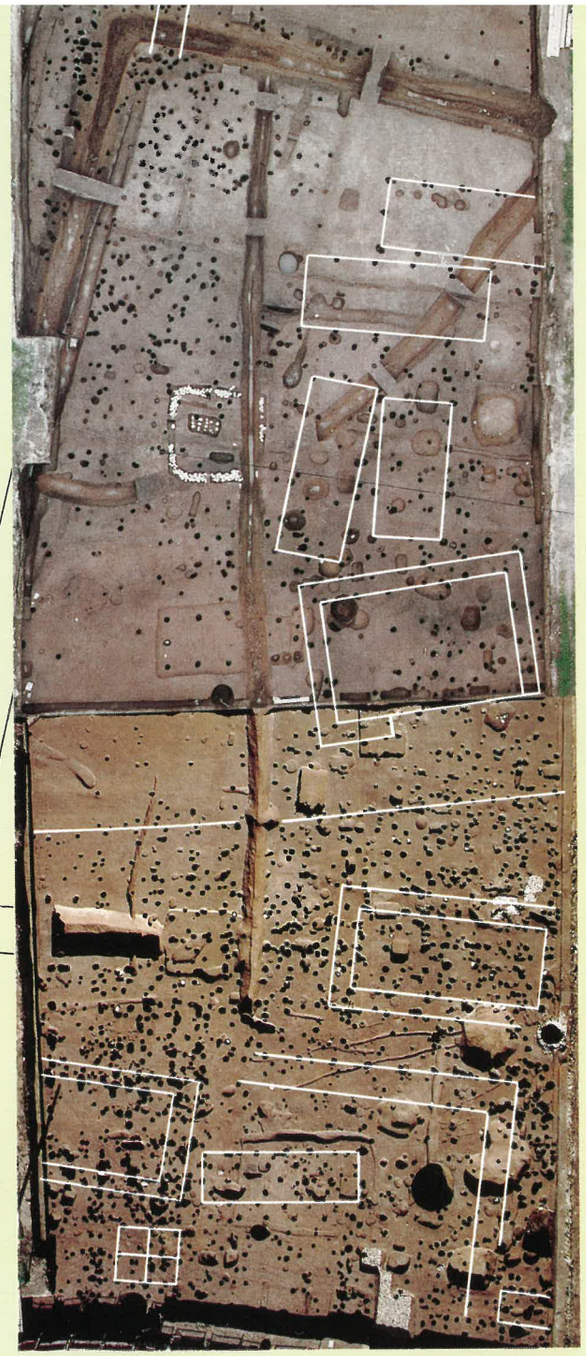
昨年の調査で、有力農民の屋敷跡ではないかと考えられていたが、屋敷跡内部にある母屋の付属施設とみられる大規模な掘っ立て柱（を行う職人の作業場が確認

建物跡の周辺から中国産の青磁（せいじ）や白磁、県窯系の緑釉（りょくゆう）陶器など高級陶磁器が大量に出土したほか、馬の骨など下に付ける鹿角製の装飾品・野沓（のぐつ）の破片が集中して初めて見つかったため、同市教委では、「有力農民の屋敷跡ではなく、武士の屋敷跡だった」と推定している。

また、屋敷の南側に、鉄や銅の鋳造・鍛冶（かじ）

◀1992年10月24日　読売新聞

◀武士の屋敷
中央公論社（一九八八）
「一遍上人絵伝」『日本の絵巻20』より


▲武士の屋敷跡　アリのように見えるたくさんの柱の穴
1：450

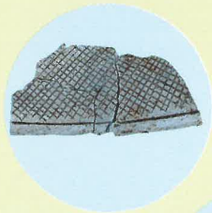
武士の屋敷は1辺約50mの方形と考えられ、まわりが溝と塀で囲まれています。中には、掘立柱の建物や半地下式の建物、井戸などがあります。建物の柱穴は重複しており、何度も建て替えがあったようです。高級な陶磁器などは武士の暮らしぶりを伝えています。

クイズ：武士の屋敷跡の写真にある柱の穴の数は約何個でしょうか。答は14ページ。

▲中国から渡ってきた陶磁器

▲愛知県などから運ばれてきた陶器

▲地元でつくられた陶器


▲野沓
（鞍の下の皮につけるもの）

▲温石
（石のカイロ）

▲白雲母（お香の道具かな）

▲河原の石を敷いた変な形の穴（何だろう。おしえて！）

武士の屋敷跡やその周辺からは柱の穴の他にも色々な形や大きさの穴がたくさん発見されました。これらの中には井戸や物を貯蔵する穴やゴミ捨て穴などがあります。

この頃にはトイレもあったはずなのですが、なかなか見つかりません。

▲穴を掘って柱を立てた建物（人の位置が柱）

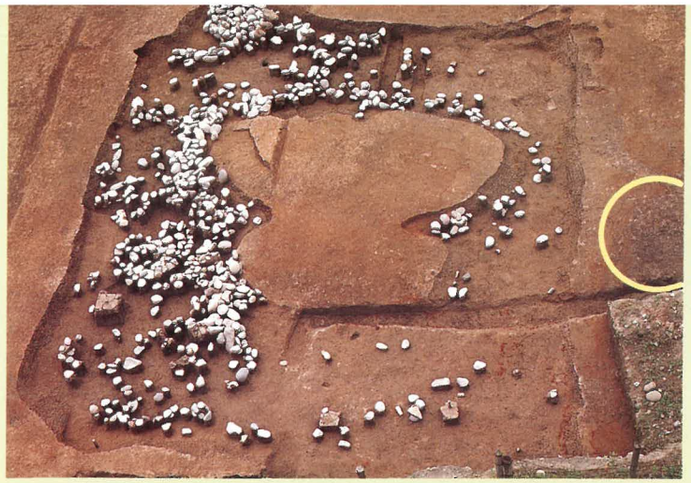
▲溝で囲まれた建物（雨落ち溝かな）

▲半地下式の作業小屋か（床には青く焼けた部分がある。）

▲鍛冶をした時にでたカス

▲深～い井戸
（魚のウロコやカエルの骨が出た）

▲３ｍも巧みに石を積んだ井戸



▲幻の「王ノ壇」か？　東西12m、南北10mの大きさ。
右側に井戸がある。（溝の中からは、多くの河原石の他に、
奥州藤原氏の時代の陶器やお金やお骨が。）

「聖宋元宝」
1101年にはじめて
つくられました。

▲中国でつくられたお金

ナムアミダブツ。極楽に行くことを願った人々は色々な墓や石の塔をつくりました。ここは祈りの場でもあるのです。

▲お墓で祈るお坊さん
中央公論社（1988）
「一遍上人絵伝」『日本の絵巻20』より

▲１辺５ｍの石積みのお墓（中央の石を敷いた穴に葬る。有力者のお墓か。）

▲庶民のお墓か（北東隅に漆塗りのお椀）

▲火葬場がお墓になった（大人の男の人のお骨）

▲建武三年（1336年）の板碑

▲宝篋印塔の塔身
（墨で梵字が書いてある。）

土地を拓く

地面2～4

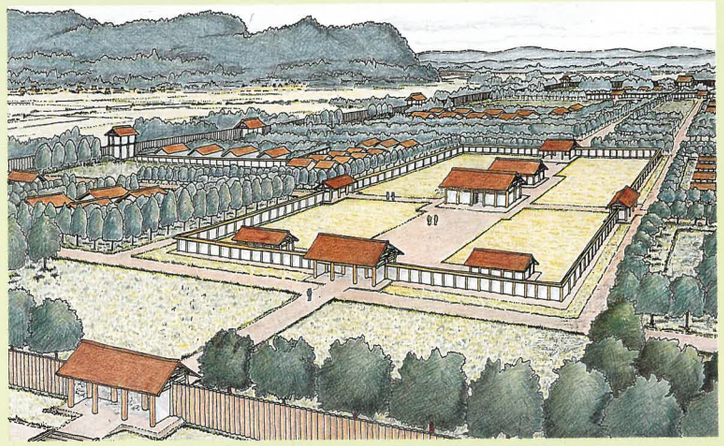
飛鳥時代～平安時代
今から約1,300年～800年前

常設展示　古代1
〈地下3階～6階〉

▲飛鳥時代の住居跡（7人家族じゃ多いかな）

7世紀の後半頃、大和には瓦葺きの寺院や中国風の宮殿が建てられ、人々は掘立柱の家に住んでいました。一方、東北地方の人々は、縄文時代以来の伝統的な竪穴住居に住んでいました。この住居は、1辺5mで4本柱、壁にカマドがつき、板壁をめぐらしたあとがあります。床からは首飾りにしたガラスの玉が見つかりました。

この頃、中央では天皇を中心とした国づくりが進んでいました。律令という法律をもとに土地と人々を直接おさめるために、東北地方の太平洋側には陸奥国が置かれ、現在の太白区郡山には国の役所がつくられました。人々には国から土地が与えられましたが、そのかわりに、色々な重い税がかけられました。



▲郡山遺跡（多賀城以前の中央政府の出先機関）

▲畑のウネのように同じ間隔で平行に並ぶ溝が30m以上続く
（畑をつくるためには大変な労力を必要としました。）

奈良時代になると、政府は租を徴収するもととなる田畑を広げるために、盛んに開墾政策をすすめました。宮城県内には開拓のために関東地方から移住させられた人々がたくさんいました。六反田からも関東地方の土器が発見されています。

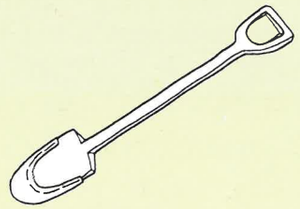
奈良～平安時代の王ノ壇には畑が一面に広がっていたようです。規則的に掘られた長く深い溝は畑をつくる時にできたものです。

▲幅40cm、深さ50cmの溝が1.8m間隔で平行に並ぶ
（土を分析したら、ダイコン、カラシナの脂肪が見つかりました。）

▲畑あとの断面（▲の白いものは1100年前頃の火山灰）

▲溝の底の耕作具のあと

▲盛土のなくなった大野田6号墳（直径12m）と畑のあと
（丸い古墳の溝の内側に畑の溝がない。古墳をこわさないで畑をつくった。）



▲奈良時代の鋤

畑から水田へ

平安時代後半　今から約1,000年前～

平安時代も10世紀の中頃になると、陸奥国の役所多賀城もおとろえてきます。京の都では藤原氏を中心とした華やかな貴族の世でしたが、地方の政治は乱れ、武士が登場してきました。

この頃、王ノ壇の地は、これまで畑だった場所が水田に一変してしまいます。高い土地を水田に変えたのは、農業技術の進歩だけではなく、農民をまとめる力のある人がいたからなのでしょうか。

▲細長い水路に直角にとりつく水田のアゼのあと（白線で表示）

野辺の送り

地面4　古墳時代の中ごろ　今から約1,500年前

常設展示　古代2
〈地下6階〉

▲王ノ壇古墳（直径23mの円墳。埴輪がある。盛土が半分残っており、中世の板碑や江戸時代の石碑がある。）

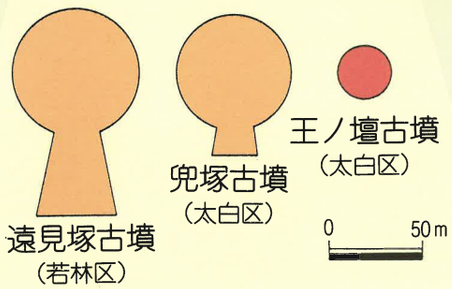
大阪の「仁徳陵」古墳のような巨大な墳墓に象徴される古墳時代。大野田にも盛んに古墳がつくられました。塚田の地名は、その名残とみられます。

地下鉄南北線の東側一帯は、当時、住居などはつくられておらず、小高い場所にはこんもりと盛り上げられた古墳があつまっていました。

古墳はすべて、中小の円墳で、たくさんあることから、豪族というよりは村の有力者達の墓だったのかもしれません。

▲大野田5号墳（直径14mの円墳。埴輪がある。）

「仁徳陵」古墳



▲古墳の形と大きさくらべ

▲大野田5号墳の円筒埴輪と朝顔形埴輪

大野田には、現在、13基の円墳が発見されています（内、6基を今回調査）。盛土の残っているのは王ノ壇古墳と春日社古墳だけですが、壊された古墳がまだまだ土中に眠っており、田んぼを歩くと埴輪を見つけることもあります。

これまで調査された円墳の大きさは、12m～30mほどのもので、埴輪のあるものとないものがあります。埴輪は約2㎞離れた三神峯の地でつくられました。

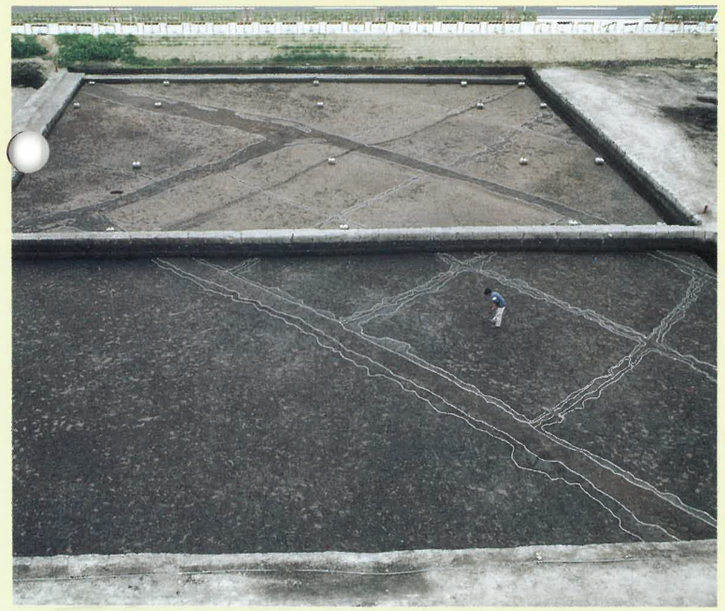
この古墳をつくった人々の住居は下ノ内にあります。今の地下鉄の西側に村をつくり、富沢で米作りをしていた人々の永遠のやすらぎの地が大野田だったのです。

▲大野田7号墳（直径12mの円墳）と8号墳（直径19mの円墳。埴輪あり。）

◀〝温故知新〟（8号墳上にて）
埴輪をはなさないのは誰？

稲作のはじまり

弥生時代の中ごろ　今から約2,000年前



▲富沢遺跡の弥生時代の水田あと（白い線をひいた部分がアゼ）

佐賀の吉野ケ里の人々が40haにも及ぶ大集落をつくっていた頃。この地の人々も米作りに精を出していました。仙台では、この頃の村は見つかっていませんが、富沢では水田が発見されています。

▲弥生土器と石の鎌が出た
（この近くに村があるのかな）

自然の恵みの中で

地面5～7

縄文時代後期
今から約3,500年前

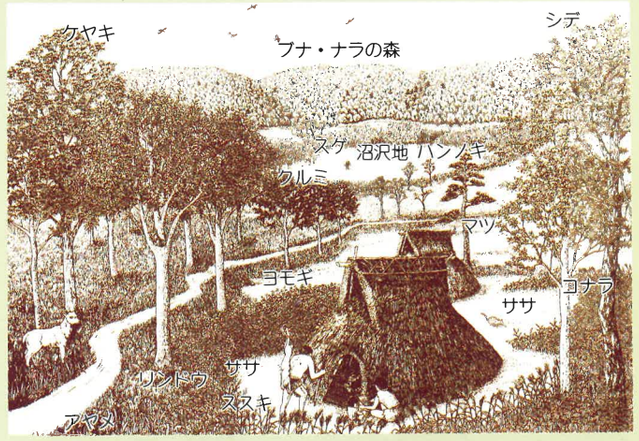
常設展示　原始
〈地下７階～10階〉

▲3,500年前の地面・ゆるやかな起伏がある

約3,500年前、中国ではすでに米作りが行われていました。日本列島に住む人々は狩りや魚とり、木の実の採集などを中心とした生活をしていました。

大野田に住んだ人々も、昔の名取川や笊川で魚をとり、クルミなどを集め、湿地にやってきたイノシシや鳥などをとって暮らしていたのでしょうか。なんとなくヘルシーな食事を想像しますが、縄文人には虫歯の人もいたそうです。六反田からはタイやブリの骨が見つかっており、けっこうグルメだったのかもしれません。

◀縄文時代の川の底で見つかったクルミ2個

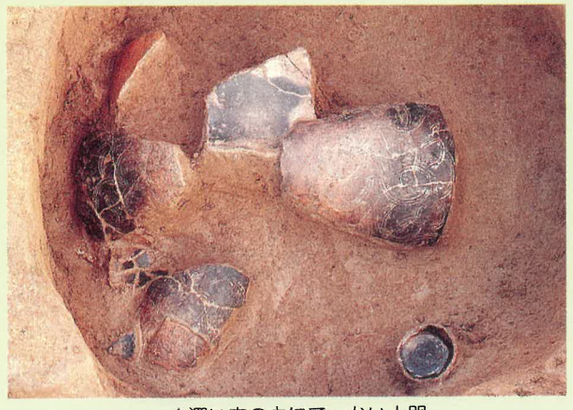


▲縄文時代の大野田あたり

地球にやさしい縄文人

◀「縄文土器だ！」授業中もこんなに真剣？

▲四角い穴の中に土器がいっぱい
（柱がなくて、炉もないから家とは言えないナ～）



▲深い穴の中にでっかい土器

今回の発掘では住居のあとは発見されませんでしたが、ゴミ捨て場やお墓などが見つかりました。すぐ近くにムラがあるはずです。

▲色々な形の縄文土器

◀穴に埋められた土器45cmの深さの土器に入れたものはなんだろう

▲河原石が直径12mで円形においてある。祈りの場？

▲穴が重なりあっている（墓地だろうか）

人災と天災

◀縄文時代の地層まで深く突き刺さった焼夷弾（一九四五年七月十日）

▶下の砂が上の地層を引き裂いて噴き上がっている地震のおそろしさ

遺跡を発掘していると思わぬものが発見されることがあります。王ノ壇遺跡からは焼夷弾と地震のあとが見つかりました。

焼夷弾は高熱を発して燃える薬をつけた爆弾です。燃えつきたものが15発、見つかっています。仙台の街が焼ケ野原となった仙台空襲。あの時の焼夷弾は田畑の広がる大野田にも落とされていたのです。50年前の太平洋戦争の時のこと。王ノ壇遺跡は昭和時代を証言する遺跡でもあるのです。

一方の地震のあとは噴砂のあとです。宮城県内では初めて発掘で発見されました。噴砂とは、大きな地震の時に地下水に満たされていた砂が震動で液体のようになり（液状化現象）、上をおおっている土を引き裂いて地表に噴出するもので、震度５以上の激しい地震の時におこります。約3,500年前の地層を引き裂いており、それより新しい地震によるものであることがわかりました。王ノ壇遺跡は地震予知のための情報源でもあるのです。

遺跡は土地に刻まれた全ての事実を残しています。発掘は遺跡からの無言のメッセージを聴き、伝える仕事です。

答　約3000個です。当りましたか。